

1. 研究背景

【立ち入り困難海岸】

南予地域には**563箇所**確認されている(愛媛県調査)
海岸での漂着ゴミは軽トラック**3万2000台分**!!



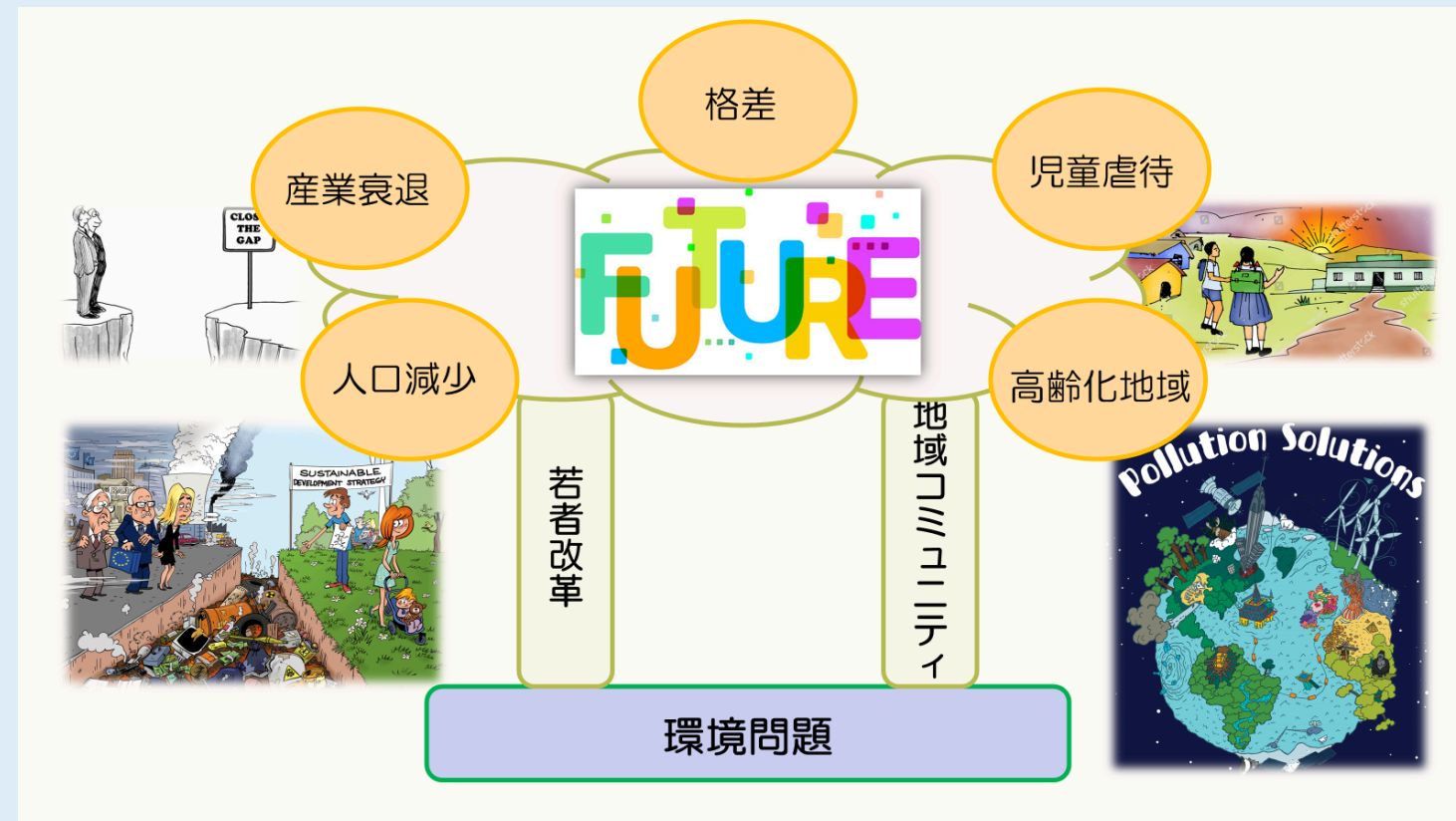
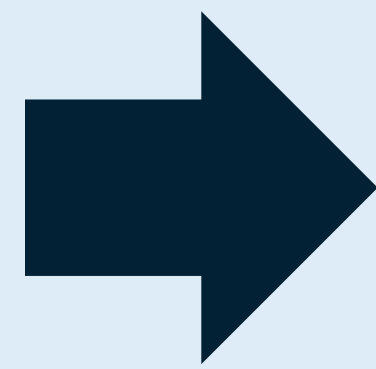
“立ち入りが困難な海岸”が抱える問題

- ゴミが**漂着**しやすい
- ゴミの**回収**が**困難**である
- 現状を**認知してもらえない**(人の目に触れにくい)



【地域におけるユースの存在】

- 消滅可能性都市
- 少子高齢化
- 格差社会
- 産業衰退
- 人口減少
- 後継ぎ不足

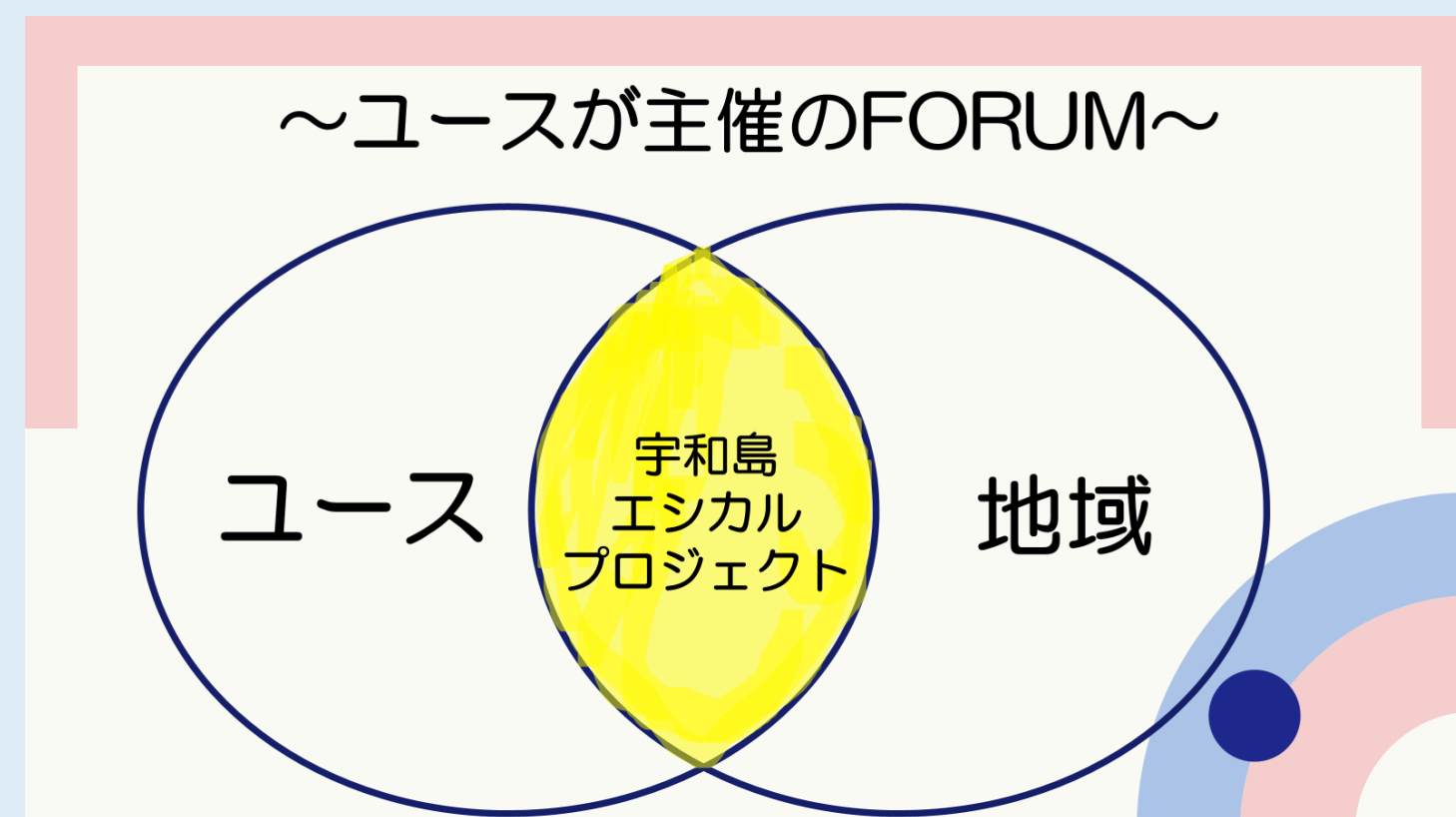


自然豊かな宇和島市。特産物である養殖業は、地域の中心となっている。
環境問題は様々な社会問題と根底で繋がっていることが分かった!

2. 事業概要

宇和島エシカルプロジェクト

- 開催期間：2024年8月～12月
- 募集対象：市内の中高生
- 活動場所：愛媛県宇和島市
- 協力：宇和島市、NPO法人SO-EN、立命館大学 など



事業目的：海岸ゴミを通して、地域におけるユースの存在価値を高める
本事業は宇和島市に所縁のある大学生が集まり、地元のユースを巻き込むことで地域の環境課題の解決を図ろうと企画したもの。

3. 私達の奮闘

【運営としての取り組み】

プロジェクト参加に加えて運営作業も体験する事で、**地域の課題を痛感**できた。具体的な活動内容は次の通りである。

- 市内中高校への広告配布
- 広告配布に関するプレゼン 広報活動
- スタッフ会議への参加
- 掲示板の作成
- 研修内容の提案
- 学生間の交流の促進
- 研修に必要な画像の収集及び提供 など



4. 調査と研修

8月：TEMM23日本代表メンバーのお2人を講師に迎え、「**社会問題と向き合う**」とはどういうことなのか？また**自分なりのアクション**の仕方について考えた。講演では**シェアリングエコノミー**についても。

9月：市内の小池浜にて2泊3日の夏合宿が行われた。現地の漁場関係者から、現状の問題点などを聞く**フィールドワーク**を実施。その後実際に**カヤックに乗って立ち入り困難海岸へ**。深刻な海岸を目の前にして、この**学びを行動**にするべく、「宇和島youth forum」で改善の為の提案をする。その為のグループを行った。

10月：2回のNPO団体とのコラボ研修が行われた。将来実現したい環境状態を夫々に考えた。「**マジョリティを行動者に変革する**」にはどうしたら良いのかグループで話し合った。

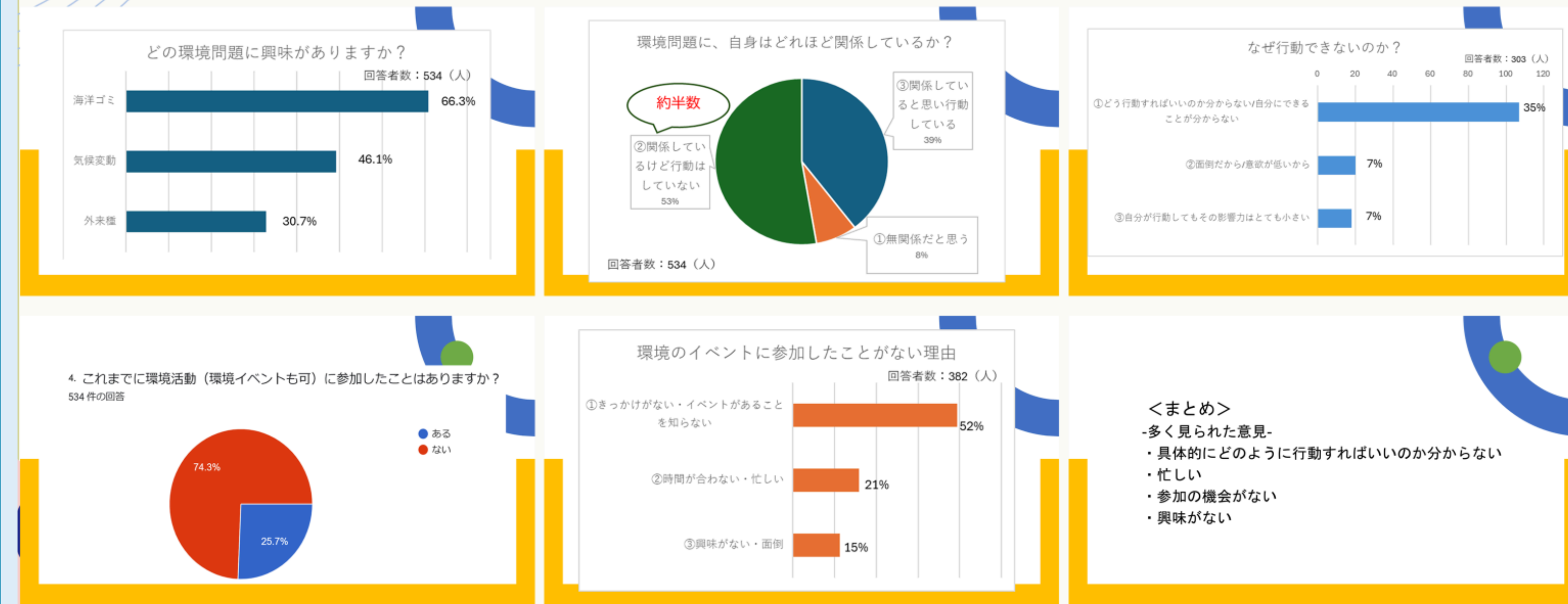
11月：「宇和島youth forum」へ向けて準備を行った。大人達とのディスカッションで、自分の意見を言えるよう何度も練習した。



5. アンケート

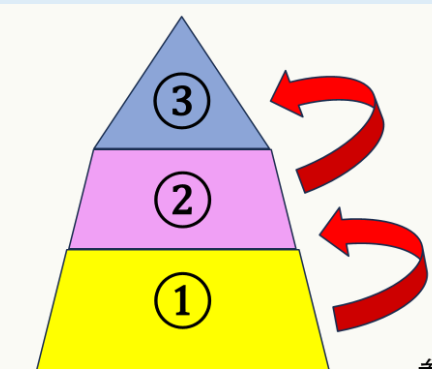
1.環境問題に関する意識調査：2024/9/25～10/19,市内の中高生**534**名

アンケート結果



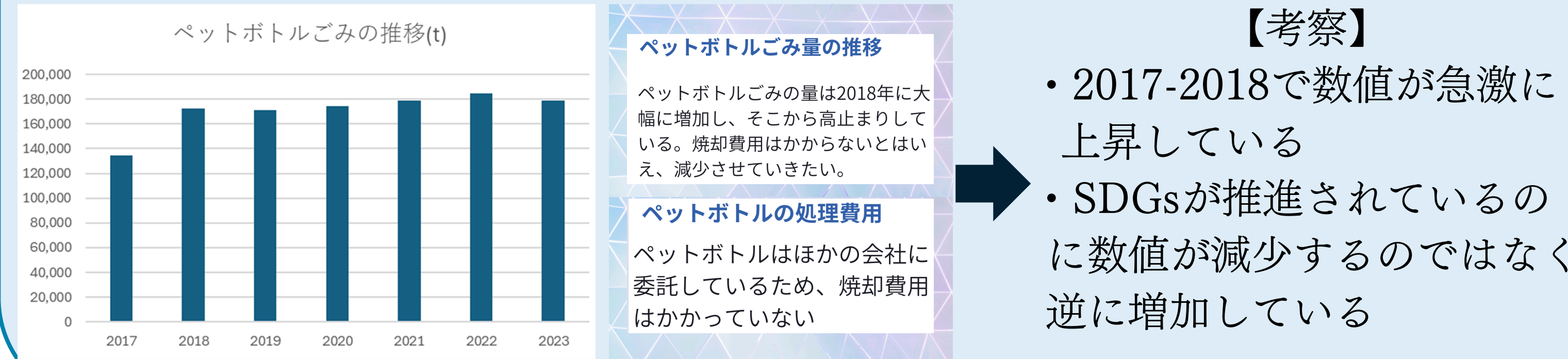
【ユース世代が環境活動に参加しない3つの理由】

- ①参加に至る程の興味を持ってない
- ②校外活動に参加する時間が無い
- ③一時的な参加で終わってしまう



環境問題を **ジブンゴト** として考え、**行動** する為には何が必要か？
 環境に優しい**生活動線**を作れば、**無意識**のうちに**環境改善**を測れるのでは？

2.宇和島市環境センターでの調査



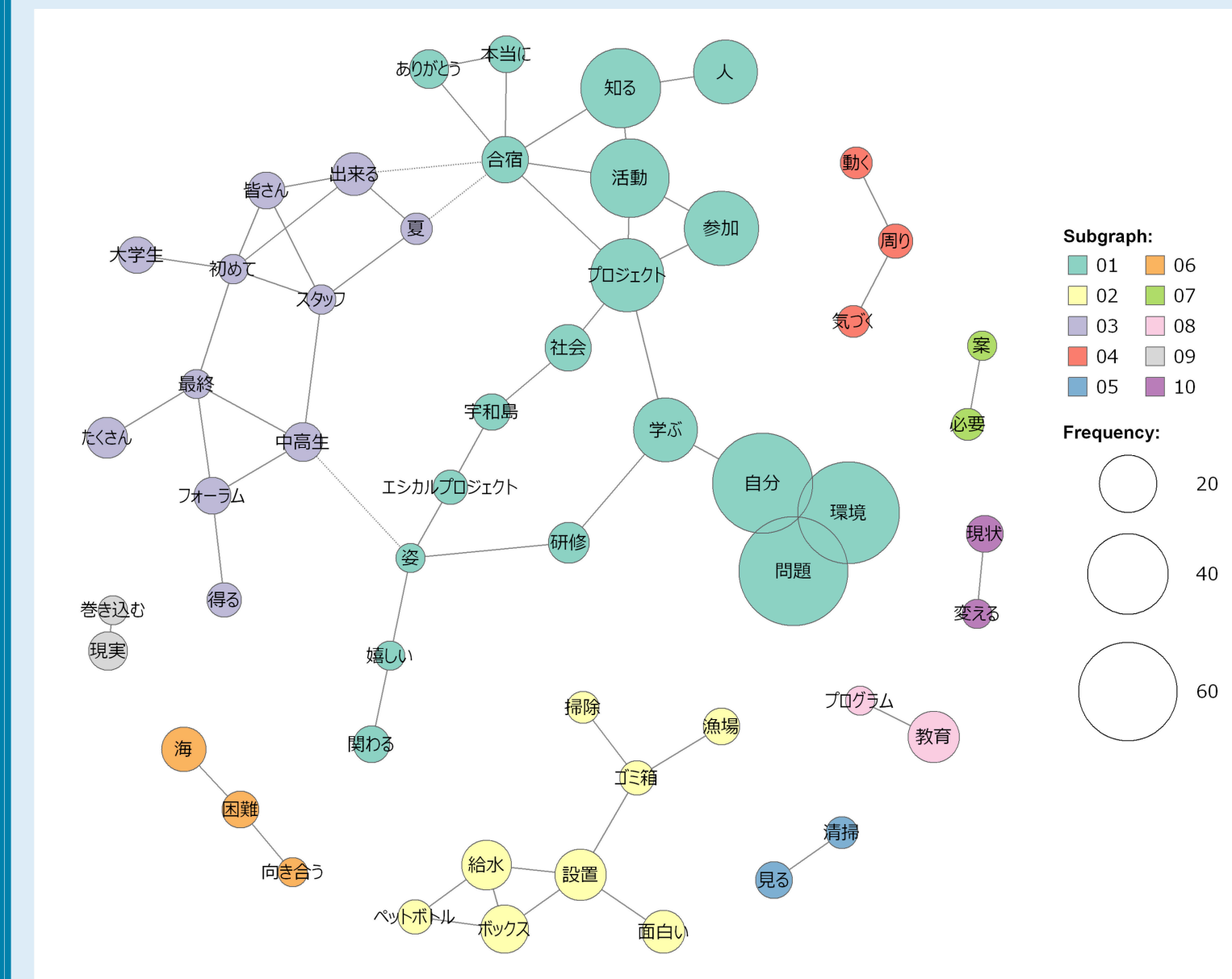
6. 12月事業

2024年12月7日「宇和島youth forum」が開催された。約半年間の学びを発表した後、様々なステークホルダーの大人達と環境問題の改善について話し合うフォーラムを行った。フォーラムではユースたちが目指す環境状態を実現する為に、宇和島市に対する提案について、その**必要性**と**実現性**について意見を出し合った。



7. 成果と考察

約半年に渡って開催された宇和島エシカルプロジェクトは、学生及び地域における環境意識に対してどのような影響を齎したのだろうか。今後の環境状態や環境イベントに対する課題と展望を考察した。KHcodaを用いて、参加者からの感想を元に分析を行った。(対象は事業参加学生及びforum来賓者)



- 【分析結果】
- 01グループ：自分と社会の繋がり、活動を通して得られたこと
 - 02グループ：forumにおけるユースの提案について
 - 03グループ：夏合宿とforumについて
 - 04グループ：周りを巻き込む姿勢
 - 05グループ：清掃活動について
 - 06グループ：海洋ゴミの解決について
 - 07グループ：提案に際して
 - 08グループ：教育プログラムの提案
 - 09グループ：実現したいことについて
 - 10グループ：現状の変化
- (総抽出語数○語の内、頻出回数5回以上の繋がり合いについて共起ネットワークを用いて分析。)

【考察】

- ・海岸ゴミを始めとする地域の課題について、中高生が学びを通して自分事化していることが分かる。
- ・事業内の“知識となる学び”と活動を通じた“体感としての学び”が繋がりをもつプログラムが効果的であったことが分かる。(01グループより)
- ・自分の行動を展望するだけでなく、周りの社会を巻き込もうという様に、参加者の行動領域が広がっている。
- ・ユース世代の活動は注目してもらいやすく、また学生自身も発想の面白さを社会から求められている事に気づくことができた。

8. まとめ

まとめとして最終的な提案資料を作成し、宇和島市へ報告した。

【提案内容】

- グループA：市として給水ボックスを設置する**
- ・“mymizu”アプリの提唱
 - ・マイボトルのデザインコンテスト
- グループB：①漁場にゴミ箱を設置する ②発砲スチロールを吸収する掃除機を導入する**
- ・掃除機にセンサーの導入
 - ・吉田高校とのコラボで「リモネン」を使用して処理
- グループC：環境問題を自分事化する為の教育プログラムを作成する**
- ・学生同士の交流(活動の輪を広げる)
 - ・校外資金の確保(助成金、企業協賛)により関係者人口を増やす
 - ・学校同士の交流の場を設置する

【寄せられた感想】

プロジェクトの中でも私は特に夏合宿で行った海岸清掃では、環境問題を身近に感じる事が出来たので印象に残っています。テレビやSNS上で見る物と実際に体感した物を比べると、与える情報とインパクトに激しい差があると感じました。ゴミで溢れかえる海岸が地球上で至る所にあると考えると、一部の人間だけではなく問題解決の為に動く必要があると思いました。(参加学生)

最終回に行われたforumでは、グループ毎に考えた提案に対して大人の方々から意見を頂きました。私達だけでは出なかったであろうアイデアや情報を知れて、楽しかったです。なにより大人達と本気で向き合えたことが嬉しく、これまでにない経験となりました。(参加学生)

宇和島エシカルプロジェクトに参加して、次世代を担う自分達がどうかしないといけない、強く感じるキッカケになりました。そして私はこのプロジェクトを通して、将来は「日本の社会問題を解決するカッコいい大人になる」という目標と夢を見つける事ができました。(参加学生)

ユースの皆さんがこなにも本気で地域の事を考えて、そして沢山に行動している姿に驚きを隠せません。自分達だけではなく、周りを巻き込む力が若い世代にはあると感心しました。大人も実は頼りたいんです。学校や世代の枠を超えて、あらゆる組織が繋がりが合う機会を大切に増やして行きたいなと思いました。(来賓者)

【事後の取り組み】

- ・「第10回全国ユース環境活動発表大会」四国大会進出
 - ・「第10回全国ユース環境活動発表大会」審査委員特別賞受賞
 - その他、参加学生が学びの輪を広げるべく夫々に活動中！
- 今後も是非、ユースの活動にご注目ください！